

第3回「ATAMI2030会議」

熱海リノベーションまちづくり実行委員会

日時 平成29年10月14日(土)

15:30～18:00

場所 小山臨海公園

熱海市下多賀541-12

昨年度熱海市では「リノベーションまちづくりと融合した創業支援による地域活性化」事業の一環として、リノベーションまちづくり構想を策定しました。

本年度は策定した構想を実現に移すべく不動産オーナーや有識者による委員会を設置し、年度5回の公開型会議を開催いたします。この会議は、市民や民間事業者、創業希望者など様々な方にご参加いただき、2030年を見据えた熱海の「暮らし」「仕事」「ツーリズム」を考え、行動に移すきっかけの場になりたいと考えています。

第3回目は「海・山・自然が働き方を変える」をテーマに、ゲストによるトークや事業者によるミニトークを行った後、会場を交えた意見交換を行いました。

○次第

1. あいさつ・・・熱海市観光経済課長 立見 修司
2. 今回テーマの説明・・・熱海市観光経済課産業振興室 主任 小林 久紀
3. ゲストトーク「動いた人には見える新しい働き方、生き方」
株式会社スノーピークビジネスソリューションズ代表取締役 村瀬 亮 氏
4. 実践者ミニトーク
株式会社櫛稲代表取締役 江口 未来 氏
富西寺跡取り・Circulation Life プロジェクト共同主宰 水野 綾子 氏
森林活動団体熱海キコリーズ代表 能勢 友歌 氏
HUBlic 合同会社代表社員 齋藤 めぐみ 氏
5. 会場も交えた意見交換

○内 容

まず初めに、第3回「ATAMI2030会議」の開催にあたり熱海市観光経済課長立見からの挨拶に続き、市の担当者から今回のテーマ設定、「海・山・自然が働き方を変える」の説明が行われました。

その後、ゲストトークとして「動いた人には見える新しい働き方、生き方」と題し、株式会社スノーピークビジネスソリューションズ代表取締役の村瀬亮氏による、アウトドアワークを活用した働き方改革のお話をいただきました。

その後、実践者ミニトークが行われ、株式会社榊稲代表取締役江口未来氏、富西寺跡取り・Circulation Life プロジェクト共同主宰の水野綾子氏、森林活動団体熱海キコリーズ代表の能勢友歌氏、HUBlic 合同会社代表社員の齋藤めぐみ氏のお話をいただきました。

そして、小グループに分かれ感想共有を行った後、委員を含め約100名の参加者による意見交換が行われました。

水野委員からは、一般的に田舎に来ると飽きてしまうと思われるが、熱海は多様な人が多くこれだけ面白い人達がいたら飽きないで楽しめるとあらためて今日感じた。昔なぜここを出たかったか考えてみると地元の人が地元のことをあまり良く言う人がいなかったように思う。今熱海に戻ってきて自分でも言えるようになってきたし、言える人も増えてきた。そういう人を自分で増やすことに価値があると思った。

内田委員からは、昭和30～40年代熱海の旅館は東京の大きな資本に買われてきた経緯があり、古くから熱海は多様性を受け入れてきたまちであると思う。よって外部から来た人への抵抗感(少なくとも中心部)はまったくない。また、現在58名雇用しているが、熱海出身者は7名だけです。旅館業は24時間仕事がある業種であり、いろいろなライフスタイル・生き方に合わせて採用している。

小野委員からは、イノベーション・イノベーションとか生産性・生産性と難しく語られているが、結局は人がわがままに働ける環境をつくること一点に集約されるのではないか。今までルールに従わない人を大人ではないという感じの感覚を、なんとなく働き方ということで議論することがあったと思うが、これからの時代は本当に大人っぽく働くことはわがまま度を追及していき、それに仕掛けを添わせること。仕掛け主導・マーケット主導だとそれに合わせなければならずストレスが増え生産性が落ちる。人間があるがままのわがままさを追求する。わがままさを発揮できないからもっとわがままになっていいということを含んで応援し合えることが必要。熱海の方は変わった人が多いかもしれませんが、日本だと割りときびしい方が多くルールに従うことこそが大人っぽさと思われがちだが、たがを外すことがイノベーションとか生産性への第一歩だと思うし、これからの熱海はそういうことがどんどん起こってくると思う。わがままな大人たちがお互いの背景をリスペクトしながら、違うものとして尊重しあい活かしあうことが出来ないかと考えてシェア社宅みたいなことを考えている。混ざり合って活かしあっていくのが楽しいみたいな世界観にいけないかと思っている。そのような多様性が熱海らしさだし熱海だからできている。

その他意見

・本日テントで打合せをしたが、何かよくわからないが話しが弾んだような気がした。シェアオフィス内にテントを置きたいと思った。また、屋上は海が見え、山が見える。そういう空間にテントを置くことで体感できる場があるとよいと思ったので、取組み始めたい。

- ・研修の一貫で熱海のまちおこしを考えています。本日のお話を聞き、考えてみると資料をつくる際に喫茶店で行うのだが、必ず窓際に座っている。無意識に自然の緑を求めていたと気が付いた。なので、自然のなかでやる会議は良いと思った。早速会社にテントを導入するよう進言したい。そして、先ほどテントで市役所の方々と色々なお話をさせていただいた中で、旅館で働いている人の声をお聞きしたいと話をしていたら、感想共有のグループの中に旅館の方がいらっしまった。人のつながりは重要だと思っています。懇親会にも出席するので旅館の方等いらっしまったらお声かけいただきたい。
- ・昨年度の創業支援プログラム「99°C」に参加させてもらい、熱海でクリエイターやデザイナーを対象にした合宿施設をやらうとしています。自然の中で仕事ができるということを私たちも考えていて、そこに熱海らしさで温泉をプラスしたものを考えている。また、これからは熱海で働くことを試す場所としての合宿施設にしたいし、熱海に来るとわくわくしてアイデアが出やすいと思ってもらえるような場をつくりたい。それとは別に今度、映像クリエイターとともに熱海のPRとなりそうな映画を撮らうと考えている。
- ・これから熱海で美容サロンを2人でやらうと考えています。2人とも都内で美容系のサービスをやっていた。2人とも母となりひよんなことから熱海に移住して自分達に何が出来るか考えたときに今までやり続けてきた好きなことをやりたいと思った。ただ、都内でやれたことがここでは受け入れられないのではないかという不安のなか、atamista や子育て支援の方などいろいろと御協力いただき、助言をいただいた。そのなかで高齢者と観光2つだと思った。どうしても美容系は若い人がターゲットになりやすい感じがするが、私たちは高齢者向けもしくは観光者向けどちらもやりたい。サロンはただやるだけではなく楽しんでもらいたい。熱海の自然を利用し、テントでグランピングのようなことを考えても面白いと思った。そうすることで地域の方、観光の方に楽しんでもらえるサロンにしたい。
- ・今日話しを聞いていた中で、実験とかそれに近いワードが多く出ていたことが印象的であった。なぜ熱海で実験しようと思う人がこんなに数多くいるのかなということに興味を持った。これから実験しようとしている方に、自分が実験するためにこれが必要だ！とか、これがあるから熱海で実験したい！というようなものをいくつかお聞きしたい。
 - 熱海に移住して自分も何か実験したいと思っていた。そしてこの2030会議に参加して、何か話すと面白い人がいるため実験することが可能だと思った。
 - 実験というか熱海でやりたいと思った背景は、絶対応援してくれる人達がいるということです。そして私は熱海市役所の人達に支えられていると思っている。なぜならば、私は熱海に住んでいません。普通の行政なら住んでいる人がターゲットになるはずなのに、そうではなくて関わるすべての人を「あたみの人」として迎えてくれる。本日会場にいる皆さんのことも「あたみの人」として迎えてくれると思う。そんな行政のいるところで試したいというか、何かしたいと思うのは自然の流れではないかと思っていて、何かやりたいと思っているし、住みたくも思っている。
 - 熱海で10年間まちづくりをやっているというか実験し続けている。行政の人もそうだが地域の人を受け入れてくれるし、何かやる時も後ろで支えてくださる。そんな空気感が今の熱海にはあるから10年間続けられてきたと思っている。
 - 人の存在が後押しになったのはそうなのだが、熱海という場所もある。都内から40分というところはかなりの利便性がある。ただ、ちょっと勘違いされていて東京のぶら下がりではないかという考え方にとらわれてしまう場合があるが、そうではなくて、今までの仕事をしながら準備できる期間が設けられるこの距離感は実験する場にはよいと思っている。(水野委員)